

新学習指導要領の趣旨を踏まえた 学力向上等の方策に関する調査研究

実践事例集



調査研究推進地区及び推進校

推進地区：鹿角市 (P4)

推進校と主な取組

八幡平小学校
(P7)



八幡平中学校
(P9)



小・中連携：授業の「8つのチェックポイント」教師用・児童生徒用の活用

推進地区：由利本荘市 (P5)

推進校と主な取組

西目小学校
(P11)



教科の特性やねらいに応じた
単元構成の工夫

西目中学校
(P13)



教科の特性に応じた言語活動の設定

推進地区：大仙市 (P6)

推進校と主な取組

西仙北小学校
(P15)



西仙北中学校
(P17)



小・中連携：小・中合同の研究推進チームによる「にしせんプロジェクト」の実践

本県重点課題

- ① 「活用」に関わる学力の定着
- ② 小・中学校それぞれの学力向上につながる校種間連携
- ③ 教育における検証改善サイクルの確立

1 平成24年度の重点課題

(1) 課題設定の理由

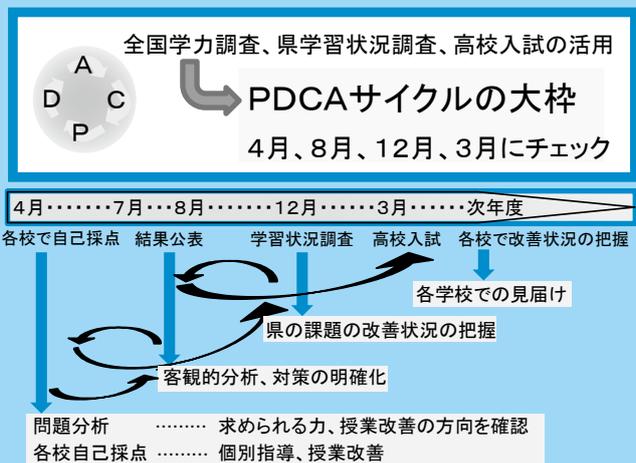
これまでの全国学力・学習状況調査や秋田県学習状況調査において、「文章や資料を読んで自分の考えたことを説明する」、「図や資料等を活用して適切に判断し、筋道立てて考えを説明する」といった、思考力・判断力・表現力等に関する記述式問題を中心に正答率が低い傾向が見られ、「活用」に関する力を一層向上させることが課題であった。

また、小学校から中学校にかけて学力が順調に向上しない地区が見られた。活発な意見交換や、自分の考えや判断した理由などを表現させるノート指導など、小学校で実践している「学びのスタイル」が、中学校において十分生かされていないことが要因の一つである。一方、小学校においては、より質の高い授業づくりのために、各教科等で習得した知識及び技能が中学校の学習にどのようにつながるかを知ることや、教科の専門性を生かした教科指導など中学校の教育力を活用することが必要である。これらを踏まえ、小・中連携の内容を改善・充実させることにより授業改善を推進し、学習意欲の向上や思考力・表現力等の育成を図る必要がある。

本県では学力向上のために、全国学力・学習状況調査と県独自の学習状況調査及び高校入試を一体として捉えた検証改善サイクルの確立に向けた取組を推進している。しかし、各学校の検証改善サイクルについては、計画の段階で評価の指標や改善の手立て等を具体的に示していなかったり、年1回のサイクルにとどまり改善につながらないまま次年度を迎えたりしている学校が見られる。各学校では、本県が進めている検証改善サイクルに沿って取り組むとともに、実態に応じてショートスパンでの検証改善サイクルを確立するなど学力向上の取組を進める必要がある。

そこで、本研究を全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえて取り組むとともに、より一層学力向上に向けた指導改善を推進する必要があると考え、重点課題を設定した。実施に当たっては、各推進地区及び推進校において小・中連携に取り組むとともに本県の*教育専門監を活用することとした。

国・県の学力調査及び高校入試を一体として捉えた検証改善サイクル



【注】*教育専門監：教科指導に卓越した力を有する教諭として秋田県で認定している。

(2) 推進地域の取組

①推進校の授業研究会や研修会等に県教育委員会の指導主事等を派遣

- 推進地区及び推進校に本事業を含めた学力向上に係る事業の趣旨や県教育委員会としての事業の進め方等の周知を図るとともに、県教育委員会の指導主事等による学校訪問で、重点課題に係る取組について指導・助言を行う。
- 県のホームページで、次の教育情報を配信する。
 - ・「活用」に関わる実践資料
 - ・指導改善の検証改善サイクルの確立に向けた実践事例 など

②推進地区や推進校で教育専門監を活用

- 本県では、多くの学校の教育力を高めるため、教育専門監を複数の学校で活用している。県内の教育専門監の授業改善に役立つ指導事例等を県のホームページやDVDなどで情報提供する。
- 推進校に教育専門監を派遣し、教材研究や授業づくりなどを支援する。

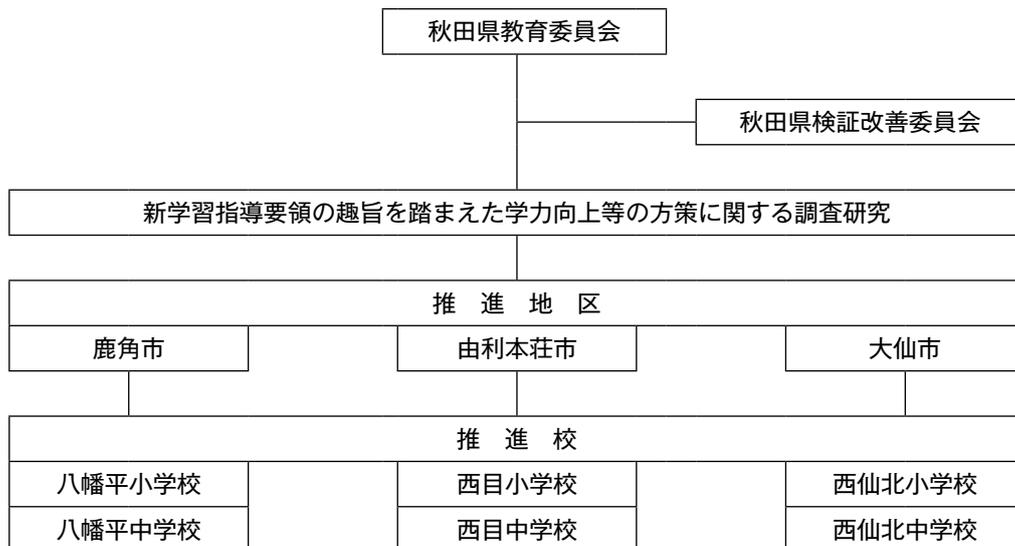
③全国学力・学習状況調査結果の分析と検証改善委員会による提言

- 全国学力・学習状況調査結果を分析した資料を各推進地区及び推進校に提供する。
- 推進地区及び推進校における教育施策や授業改善等の特色ある取組を、秋田県検証改善委員会（全国学力・学習状況調査結果を分析し、県や市町村の教育施策や学校における教育活動の改善のための方策等をまとめる）に情報提供し、指導・助言を受けるとともに事業の一層の充実を図る。

④推進校等の成果を普及

- 秋田県教育研究発表会や各教育事務所管内の学力向上に関する事業等において、推進地区及び推進校における学力向上に向けた特色ある取組を発表する機会を設定し、成果の普及を図る。
- 推進地区及び推進校が作成した研究報告書を県内の小・中学校に配付するとともに、県のホームページで配信し、研究成果を発信する。

(3) 事業の実施体制



2 成果と課題

(1) 成果

- ① 各推進地区において組織的な研究体制を整え、各推進校が思考力・判断力・表現力等を育む授業改善に全校体制で取り組むことで、「活用」に関わる力の向上が見られた。
- ② 各推進地区の教育委員会が推進地区の研究体制や小・中の連携を支援し、小・中合同の研究推進チームによる実践や、小・中共通の視点での授業改善への取組など、多様な連携について研究を深めることができた。
- ③ 各推進地区及び推進校において、全国学力・学習状況調査と県学習状況調査を検証改善サイクルの中に位置付け、これらの結果を分析した上で具体的な改善策を実践し、児童生徒の学習意欲や学習習慣、学力等について、成果を定量的に把握することができた。
- ④ 研究教科の教育専門監がない推進地区の推進校に対し、推進地区外から当該教科の教育専門監を派遣した。教育専門監とのTTによる授業や研究協議が行われ、新学習指導要領で求められている授業づくりについての研修を深めることができた。
- ⑤ 教育専門監の授業DVDを、推進地区や推進校だけでなく県内の各小・中学校でも活用できるようにライブラリー化し、授業改善に役立つ事例として情報提供した。
- ⑥ 公開研究会や推進地区単位等での成果発表会を実施したり、秋田県教育研究発表会等において発表の機会を設けたりすることより、県内外への成果の普及に努めた。さらに県のホームページで配信し、研究成果を発信した。

教育専門監による国語の授業



八幡平小学校



八幡平中学校

(2) 課題

- ① 「活用」に関する力を向上させるために、教科や単元等で身に付けさせたい力を明確にした上で効果的な言語活動を計画的に位置付けるなど、指導の改善を一層進めていく必要がある。本研究で成果につながった推進地区及び推進校の取組を県のホームページに掲載するなどして広く紹介するとともに、各教科において、思考力・判断力・表現力等を育む学習活動が効果的に行われるよう、学校訪問指導等を通して授業改善を一層推進したい。
- ② 小・中連携に基づいた授業の実現については、各地区の実態に応じて一層検討していく必要がある。9年間を見通した学びのスタイル等の確立だけでなく、小・中の授業交流、共同研究体制など組織的な取組について、推進地区の実践等を広く紹介し、各校の改善につなげていく必要がある。
- ③ 国・県の学力調査及び高校入試を一体として捉えた検証改善サイクルの確立については、教科の調査結果だけでなく、学校質問紙や児童生徒質問紙の結果分析を基にした改善を一層進めていく必要がある。本研究で成果につながった推進校の取組や「平成23年度学力向上推進事業実践事例集」、秋田県検証改善委員会による「学校改善支援プラン（H19～H23）」など、計画の段階から評価や改善部分についての指標や手立て等を具体的に示した取組事例等を紹介し、学校訪問指導や学力向上に係る事業等を通して支援していきたい。

研究主題

小・中連携による9年間を見通した学習習慣・生活習慣等の定着を図る共通実践

鹿角市教育委員会 教育長 畠山 義孝

I 推進地区の概要

推進校数	小学校	1校	中学校	1校	合計	2校
推進校名	鹿角市立八幡平小学校, 鹿角市立八幡平中学校					

1 研究の重点

- (1) 小・中学校が連携して9年間の系統性を考えた学習習慣・生活習慣の定着を図る。
- (2) 文字資料に基づいて課題解決するためのコミュニケーションスキルを育てる授業の実践研究をする。
- (3) キャリア教育の視点を重視したふるさと教育を、小・中学校の交流を主体にして展開する。

2 研究の概要

(1) 実施体制

本市では、全国学力・学習状況調査等の結果分析等から、コミュニケーション能力の育成、学力の向上、自立心の育成を課題に挙げ、解決策として「小・中連携」に着目し、推進委員会を組織し、9年間の系統性を考えた共通実践事項等について、市と学校が連携して取組を進めた。(資料1)

(2) 推進委員会及び学校訪問等での指導・助言

- ① 研究内容や研究の方向性、連携事項等について確認し、助言した。
- ② 9年間の系統性を考え、学習習慣形成やその指導事項をまとめた「8つのチェックポイント」の作成、活用について助言した。
- ③ 教科訪問において、思考力・判断力・表現力を育成するための言語活動の設定やその評価方法について指導・助言を行った。

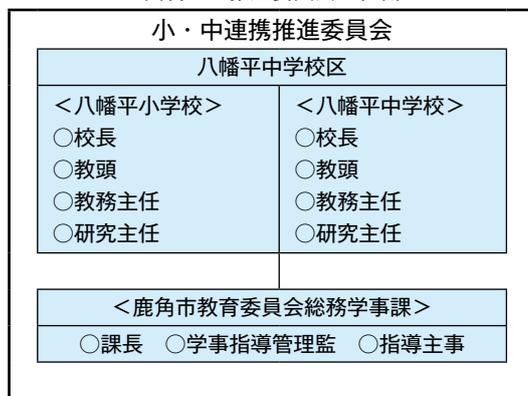
(3) 先進校の視察

コミュニケーションスキルを育てる授業方法について先行研究と実践例を学ぶために、先進校である山形県新庄市立新庄中学校の視察を行った。

(4) 成果の普及

- ① 鹿角教育研修委員会主催の「小学校教科外授業研究会」において、課題解決の手段としてのコミュニケーション活動を主なねらいとした授業を提案した。
- ② 全学級訪問指導(小学校9校・中学校5校)において、推進校の成果を紹介し、中学校区の連携を推奨した。

資料1 推進委員会の組織

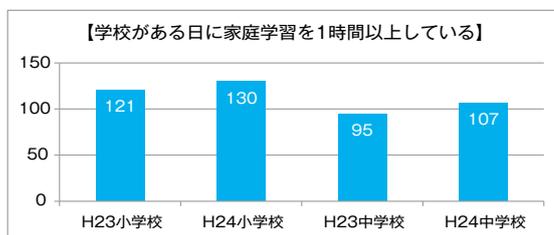


II 学力調査等に見られる成果

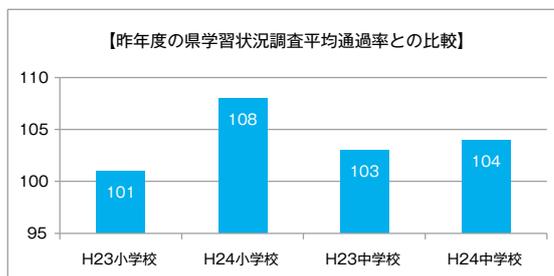
推進校及び小・中連携に取り組む市内の学校の状況を、秋田県学習状況調査により比較すると、昨年度より伸びており改善の傾向にある。(資料2, 3)

- 1 接続を考えた学習・生活両面の指導を積極的に展開し、学習意欲を大きく向上させている。
- 2 共通実践によるスキル形成やコミュニケーション活動を積極的に取り入れた授業などにより、学ぶことや表現することへの意欲が向上している。
- 3 発達の段階に応じた系統性のある「学び」を意識した手立てを工夫するようになったことで、学力向上を図ることができた。
- 4 キャリア教育の視点を重視したふるさと教育の展開や本市の「夢創造スクール事業」等を通して、児童生徒の自己肯定感が向上し、さらに、将来への夢や目標をもつようになった児童生徒が増えるなど、「生きる力」の土台づくりにつながっている。

資料2 家庭学習への取組の変容



資料3 学習状況調査の変容



(県平均を100とした場合の割合で表示)

研究主題

小・中が連携し、基礎・基本の習得とその活用を図る指導法の工夫

由利本荘市教育委員会 教育長 佐々田 亨三

I 推進地区の概要

推進校数	小学校	1校	中学校	1校	合計	2校
推進校名	由利本荘市立西目小学校, 由利本荘市立西目中学校					

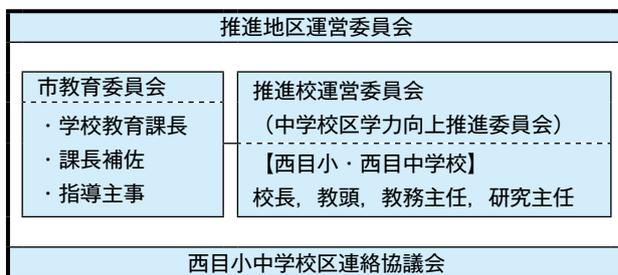
1 研究の重点

- (1) 基礎・基本の習得とその活用を図る指導法の工夫
- (2) 思考力, 判断力, 表現力の育成
- (3) 評価規準を明確にした指導計画の作成・活用

2 研究の概要

(1) 研究体制

小・中連携を基盤にした推進地区の研究体制を整えるため、右記のような組織をつくり、市教育委員会と学校が連携し、諸調査結果分析、具体的実践事項の確認等、研究の方向性や実践内容について協議し、研究を推進した。



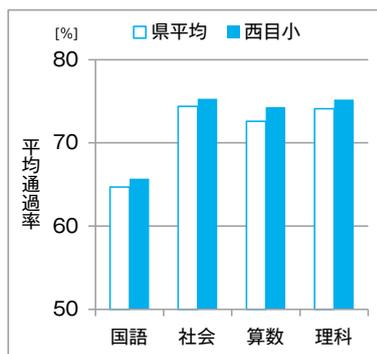
(2) 成果の普及

- ① 公開授業研究会を11月22日に実施し、研究の成果を授業及び研究協議会の場で明らかにした。幼・小・中・高の各校種、県内外から約300名が参加した。
 - ② 市教育研究所報（平成25年1月24日発行、第188号）に本研究実践の取組を掲載し、市内小・中学校の他、近隣の市町村及び教育関係機関に成果を発信した。
- (3) 成果等の把握と検証の手立て
- ① 小・中職員合同参加による授業研究会を実施し、児童生徒の具体的な姿で評価し、協議した。
 - ② 昨年度秋田県学習状況調査、今年度全国学力・学習状況調査（4月実施）と今年度秋田県学習状況調査（12月実施）の質問紙結果の比較により、児童生徒の変容を検証した。

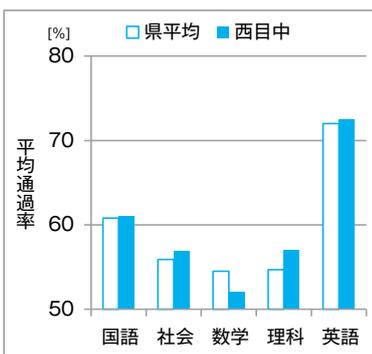
II 学力調査等に見られる成果

今年度の県学習状況調査における推進校と県平均通過率を比較すると、ほとんどの教科で上回っていた。また、同一集団の変容を見るため、西目小学校は4月に行われた全国学力・学習状況調査と12月に行われた県学習状況調査の結果、西目中学校は昨年度と今年度の県学習状況調査の結果を比較した。その結果、「ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っている」の割合が、小学校で約10ポイント、中学校で約8ポイント、それぞれ増加した。

このように、児童生徒が発表したり、話し合ったりする活動の充実が図られたことが、推進校における成果につながったものと考えられる。

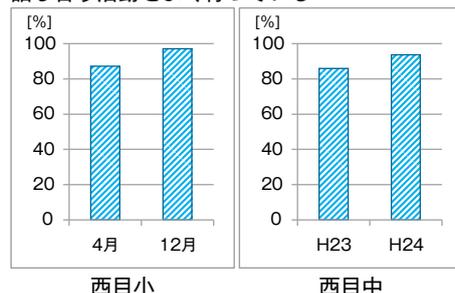


H24県学習状況調査の結果（全学年の平均）



児童生徒質問紙

ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っている



「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」の合計の割合

研究主題

学校とともに進める学力向上の取組

大仙市教育委員会 教育長 三浦 憲一

I 推進地区の概要

推進校数	小学校	1校	中学校	1校	合計	2校
推進校名	大仙市立西仙北小学校, 大仙市立西仙北中学校					

1 研究の重点

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の一層の向上を図ること。
- (2) 児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的・継続的に取り入れるとともに、児童生徒主体の学習活動の一層の向上を図ること。

2 研究の概要

(1) 学力向上対策等について

本市では、学習の定着状況の把握・分析及び学力向上施策等を検討するために学力向上推進委員会を設置している。4月に実施した全国学力・学習状況調査や秋田県が毎年12月に実施している学習状況調査の結果分析及び結果分析から捉えた課題の改善の方策等をまとめ、各学校の授業改善に役立ててもらうことをねらいとしている。また、学力調査等の課題の改善及び新学習指導要領への対応のためのフォローアップシートを小学校4年生から中学校3年生まで各学年ごとに作成して各学校に提供している。

(2) 授業改善に向けた研修等について

今年度は、市教育研究所が主催し、算数・数学と理科の指導者研修会を実施した。市の指導主事及び教科指導に卓越した力を有する教育専門監による、新学習指導要領の趣旨を踏まえた教科指導の在り方等についての具体的・実践的な研修を行った。また、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官笠井健一氏を迎え、推進校2校の授業研究会及び市内教職員が参加しての講演会（演題：「算数・数学科における学力向上と言語活動の充実」）を実施し、新学習指導要領の具現化に向けた授業改善の研修を深めた。

大仙市学力向上推進委員会

構成

国語	社会	算数	数学	理科	英語
----	----	----	----	----	----

教育専門監を含め、各教科5～7名の教職員で構成

役割

- ・学力調査等の分析及び改善の視点提示
- ・課題改善及び新学習指導要領対応のためのフォローアップシートの作成等

学力向上推進委員の構成と役割

平成24年度秋田県学習状況調査 中学校2年数学
フォローアップシート 氏名

風早の平太 1/2 田中 1/3 山本 1/4 佐藤 1/5

① 次の図のように直角二等辺三角形ABCの、点Cを中心として時計回りに回転させていきます。三角形ABCが回転して得られる、C、A'、B'が一直線上にあるときの回転角を求めなさい。

② 次の4つの三角形の中から合同な三角形を1組みつけ、合同の記号を使って表しなさい。また、そのとき残る2つの合同条件も書きなさい。

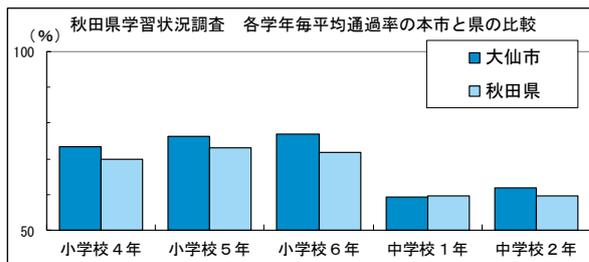
県学習状況調査対応フォローアップシートの一部(中学校2年数学)



II 学力調査等に見られる成果

1 秋田県学習状況調査における成果

平成24年12月に実施された県学習状況調査における各学年教科別平均通過率は、中学校1年生がわずかに県の平均を下回った以外上回ることができた。また、情意面においても良好な状況にある。



2 市の教科等指導者研修会における成果

市の教科等指導者研修会についての教職員アンケートでは、研修内容について9割以上の教職員が、肯定的な評価をしており、自由記述欄にも「今後の指導に役立てたい」「教育専門監の実践が参考になった」「異校種の実践が参考になった」などの意見が多く見られた。

研究主題

人やものと進んで関わりながら、よりよく問題を解決する子どもの育成

鹿角市立八幡平小学校 校長 佐藤 友信

I 研究の重点

- (1) コミュニケーション能力・自立心の育成に関すること
- (2) 基礎学力の向上及び教師の資質・能力の向上に関すること
- (3) 全国学力・学習状況調査等の趣旨・結果を踏まえた、指導の充実に関すること

II 自校の課題と取組による成果

1 自校の課題

児童の約7割がバス通学という広い学区のため、幼少期からの触れ合いや体験が少なく、コミュニケーション能力や表現力が不足しているという面が見られた。

昨年度の県学習状況調査の結果、4年生は県平均を若干上回ったものの、特に理科の落ち込みが目立った。また5年生は、算数以外の3教科で県平均を大きく下回り、特に国語の落ち込みが顕著であった。

今年度4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果からは、国語Aと理科が県平均を若干下回ったものの、総合では県平均を若干上回っていた。小問別に見ると、特に書いたり発表したり話し合ったりする表現力に課題があることが分かった。また質問紙の結果から、国語は好きで、また大切だとは思っているが、国語に対する苦手意識をもっている児童が多いことが判明した。特に、自分の考えを明確にして説明したり、文章に的確に書き表したりすることへの抵抗感が強いことが明らかとなった。

児童質問紙等からは、早寝・早起き・朝ご飯やメディアに接する時間など、学力の基盤となる生活習慣に課題がある児童が多いことも判明した。

2 成果

H24年度県学習状況調査の結果（県平均=100）（資料1）

今年度の県学習状況調査の結果を昨年度と比較すると、5・6年生ともに、大きな向上が見られた。（資料1）

質問紙の結果でも、自分の考えを発表することや話し合うことなどに対する意識が高まっている。（資料2）

実際の児童の姿からも、特に5・6年生においては、話し合ったり練り合ったりする活動への意欲が増し、互いの考えを深めたり高め合ったりしようとする様子が見られる。

教職員アンケートからも、「総合的な学習の時間と各教科との関連を図った指導が効果的であった」「話し合うことや発表することへの抵抗感がなくなり、表現力が増した」などの回答が得られた。

	国語	社会	算数	理科	総合
H23 4年	101.7	/	105.3	95.0	100.6
H24 5年	111.6		114.7	115.5	118.7
前年度比	+9.9		+10.2	+13.7	+14.5
H23 5年	78.4	92.9	101.8	90.7	90.9
H24 6年	97.8	90.4	111.3	110.3	102.4
前年度比	+19.4	-2.5	+9.5	+19.6	+11.5

設問に対して「あてはまる」と回答した割合（資料2）

4-1 「自分の考えを発表する機会がある」					
H23 4年	38.2%	H23 5年	53.1%		
H24 5年	52.9%	H24 全国	53.1%		
		H24 6年	78.1%		
4-2 「学級の友達と話し合う活動がある」					
H23 4年	38.2%	H23 5年	40.6%		
		H24 全国	56.3%		
H24 5年	58.8%	H24 6年	87.5%		

Ⅲ 成果に寄与したと考えられる取組

1 小・中連携を生かした「学び」の指導

(1) 「8つのチェックポイント」を活用して

授業に臨む際、教師が気を付けたいこと、そして児童にも心がけさせたいことについて、次のように8項目を設定した。

教師用	児童用（中・高学年）
①学習課題設定	今日のめあてや課題をしっかりと知ろう。
②学習の見通し	今の時間の学習の進め方を知ろう。
③練り合いの時間	自分の考えを持って話し合おう。
④発問の吟味	先生の話をよく聞き、進んで発表しよう。
⑤定着のための活動・時間保証	分からないことは先生や友達にどんどん聞こう。
⑥まとめ・振り返り	今の時間の振り返りをして、学習したことを覚えよう。
⑦板書の工夫	分かりやすいノートの書き方を工夫しよう
⑧教育メディアの活用	発表の仕方を工夫しよう



効果的な板書の工夫（写真1）



話し方・聞き方ポイント（写真2）

・教師用「8つのチェックポイント」を、小学生にも分かりやすいように低学年用、中・高学年用に文言を直して教室に掲示した。児童の実態や教師の反省も踏まえながら、強調ポイントを設定するなどして、教師も児童も意識しながら授業に臨んだこと、授業研究会の視点にして検証したことにより、共通理解の下に授業改善が進んだ。（写真1）

・練り合いなどの項目について、視察した先進校の取組等を参考にして具体的な手立てや手引を示して取り組んだ。（写真2）

「元気もりもりカード」（資料3）

(2) 幼保・小・中の交流による生活習慣の定着

学力向上の基盤となる生活習慣について、幼保・小・中で同じようなアンケートを複数回実施し、課題を共有して「元気もりもりカード」を作成して啓発を図った。食生活や睡眠、メディアとの接し方など、児童と保護者の意識も徐々に高まってきた。（資料3）



2 総合的な学習の時間において活用を図る指導

総合的な学習の時間における「課題発見・追究力」「関わり合う力」「表現する力」が、教科の学習と響き合うようにした。

(1) 課題意識をもたせるための工夫

- ・地域のひと・もの・ことに直接関わって学ぶ体験活動の重視
- ・相手意識、目的意識等をもった外部への発信による自己表現

(2) 学び合いによる学習過程の工夫

- ・協同的な学びにより、それぞれの立場から収集した情報を付箋紙に書いて出し合い、整理・分析するなど、学び合いの場を有効で不可欠な場として実感できるようにした。
- ・各教科等で行っている言語活動や練り合いの方法を活用する場とした。



グループ活動調査（写真3）

5年生は「鹿角の未来は俺たちが守る」のテーマで、観光地や市役所で働く人々と直接コミュニケーションを図りながら進めた。6年生は「大日堂舞楽を発信しよう」のテーマで、ユネスコの無形文化遺産である地域の伝統芸能、大日堂舞楽について直接体験し、調べたことを基に国際教養大学の留学生と交流会を行った。「ひと・もの・こと」と関わり合いながら学習を進めたり相手意識や目的意識をもって表現したりしたことが、意欲や学力の向上につながっている。（写真3）

研究主題

一人一人が確かな学力を身に付け、主体的に学ぶ学習の創造
 ～基礎学力の向上と思考力・判断力・表現力等の育成を目指して～

鹿角市立八幡平中学校 校長 吉田 啓一

I 研究の重点

- (1) 「八中8つのチェックポイント」を活用した授業づくりにより、生徒に基礎的、基本的な力を付ける授業の具現化を行うこと
- (2) 課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の向上を目指すとともに学習に対する意欲の向上を図ること
- (3) 各教科等で、体験的な活動や言語活動などを盛り込みながら、考える、表現するという活動の時間を設定することで、コミュニケーション能力の向上を図ること

II 自校の課題と取組による成果

1 自校の課題

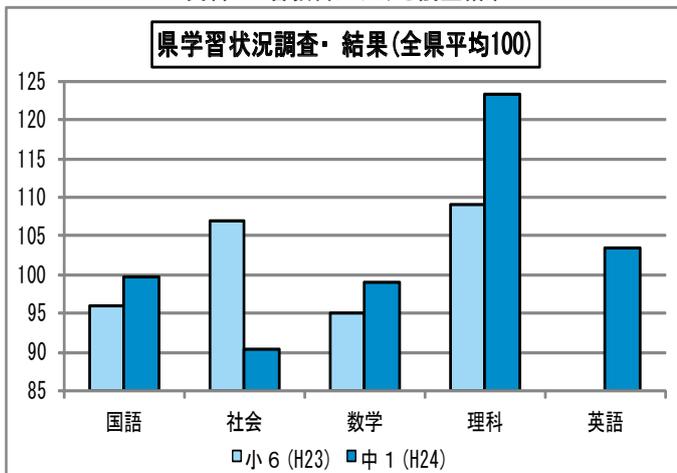
- 全国学力・学習状況調査及び秋田県学習状況調査等の結果から、次のような課題が見えてきた。
- ・基礎的、基本的な知識・理解・技能の定着
 - ・教科のねらいに迫る言語活動への取組と思考力・判断力・表現力の育成
 - ・自分の考えを意欲的に発表する力の育成

2 成果

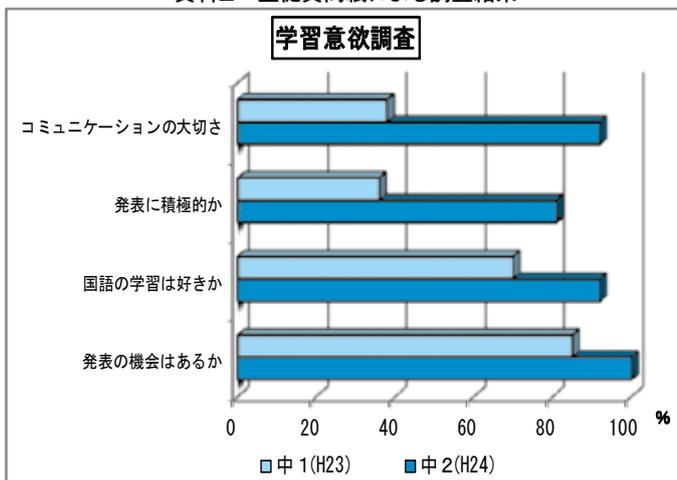
- (1) 秋田県学習状況調査の結果による経年比較において、国語、数学、理科の3教科が昨年度より向上した。特に理科については、伸び率が大きく、県の平均通過率を大きく上回った。また、英語も県の平均通過率を上回った。(資料1)
- (2) 生徒質問紙による学習への意欲については、以前は自分の考えがあっても人前で発言しないという生徒が多かったが、現在ではコミュニケーションは大切であるという意識が高まるとともに、発言や発表の機会があればそれを話すべきだという意識の変容が見られた。(資料2)

また、学習意欲の向上とともに表現力の向上が見られた。各教科担当者から、「間違いはあっても怖れずに自分の考えを述べようとする生徒が増えた」、「説明を生徒同士で補い合う活動が自然にできるようになった」という声が増えた。

資料1 各教科における調査結果



資料2 生徒質問紙による調査結果



Ⅲ 成果に寄与したと考えられる取組

1 小・中連携を生かした「学び」の指導

(1) 「八中8つのチェックポイント」による小・中連携を図った指導方法の工夫・授業改善
 小・中学校で次のような同じ視点による日常の授業実践及び授業研究に取り組んでいる。

	教師用	生徒用
①	何を学習するのが分かり、意欲的に取り組むような学習課題の設定	今の時間、何を学習するのかしっかり理解しよう。
②	学習の順序や課題解決の見通し	今の時間の学習の進め方に見通しをもって進めよう。
③	自力解決の時間、それぞれの考えを共有する練り合いの時間の設定	自分の考えをしっかりと持ち、話し合い活動に参加しよう。
④	児童生徒を引きつける発問の吟味	先生の話をよく聞き、積極的に発言・発表しよう。
⑤	学習内容定着のための活動の設定及びその時間の保証	分からないことは、質問して理解を深めよう。
⑥	学習したことがしっかり定着するまとめ、振り返りの場面設定	今日学習したことを振り返り、重要な事柄をしっかり覚えよう。
⑦	1時間の流れや重要な学習事項がよく分かる板書の工夫	重要な学習事項がよく分かるようにノートにまとめよう。
⑧	効果的な教育メディアの活用	発表場面では、話すだけではなく発表方法を工夫しよう。

- ・「八中8つのチェックポイント」の中から毎月の重点項目を決めて各教科等で授業改善に努めた。その際、学習効果を高めるため、生徒自身が目標を考えてチェックポイントを意識して取り組めるようにした。委員会活動の学習委員会の反省で、「今月は発言に意欲的でなかった」という意見が多く出た場合には、翌月の目標として生徒からチェックポイント③④を意識した目標を立てられ、それを受けて、教師側は教師用のチェックポイント③④を重点にした授業の組立を行った。生徒と教師が同じ目標をもって授業を進めた。
- ・全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、各教科で特に継続的・重点的に行う項目を決めて取り組んだ。数学では、チェックポイントの「学習内容定着のための活動及びその時間の保証」への取組、理科では、毎時間の終わりに確認テストを実施し、基礎・基本の定着につなげた。



小・中合同授業研究会の様子

(2) 八幡平地区研修会及び授業研究会等を通じた授業改善

小・中学校が互いに連携して指導方法の工夫や改善を行い、更なる授業力向上による生徒の学力を高めることを目指し、互いの授業実践から学び合う機会を設けた。できるだけ多くの授業を見合い、意見を交換して協議を深めた。また、教育専門監を活用した授業を小・中学校共に行い、教育専門監とのTT指導による授業及び研修会を実施して研究を深めた。



総合的な学習の時間
ボランティアガイド研修

2 総合的な学習の時間での表現力向上の取組

各教科で培った言語活動の力を土台に、生きた表現力の育成のために総合的な学習の時間において体験的な活動を重視して取り組んだ。

「八幡平ボランティアガイドに挑戦しよう」というテーマの下、十和田八幡平観光物産協会「森と山の案内人」の方々から、八幡平国立公園を訪れた観光客に案内を行うための基本的なガイドの仕方を教わった。その後、生徒が自らが調査した内容を合わせて、生徒が伝えたい独自の内容を盛り込んだガイドマニュアルを作成し、観光客を案内する活動を展開した。観光客とのやり取りの中で、自ら判断し会話をつなげる実体験を通してコミュニケーション能力が格段に向上した。



総合的な学習の時間
ボランティアガイド本番

研究主題

思考力・判断力・表現力の育成を目指す「つながる学び、高め合う学び」の創造
～教科の特性及びねらいに応じた言語活動を通して～

由利本荘市立西目小学校 校長 米持 隆司

I 研究の重点

- (1) 基礎的、基本的な知識・技能の習得及びこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成に関する事
- (2) 国語科を中核とした各教科等の特性に応じた言語活動の充実に関する事
- (3) 学習評価の改善と指導の充実に関する事
- (4) 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた、教育指導の充実や学校状況の改善に関する事

II 自校の課題と取組による成果

1 自校の課題

平成24年度全国学力・学習状況調査において、次の2点に関わる設問で正答率が低かった。

- ①解決に必要なことを抽出したり整理したりすること
- ②複数の事象や資料、条件等を考慮して、適した方法で筋道立てて解決すること

上記2点に関わる設問で正答率50%以下の問題

国語B問題（読む能力）	算数B問題（数学的な考え方）	理科問題（科学的な思考・表現）
<ul style="list-style-type: none"> ・3-イ 目的に応じ、記事の特徴を捉える。 ・3-四 複数の記事を結び付け、事実を基にして自分の考えをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1 (2) 理由を記述する。 ・2 (2) 必要な情報を用いて判断し、理由を記述する。 ・4 (3) 筋道立てて考え、求め方を記述する。 ・5 (3) 理由を記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2 (5) 実験の結果を基に方法を改善して、理由を記述する。 ・3 (4) 実験を条件を制御しながら構想する。 ・4 (5) データを基に分析し、理由を記述する。

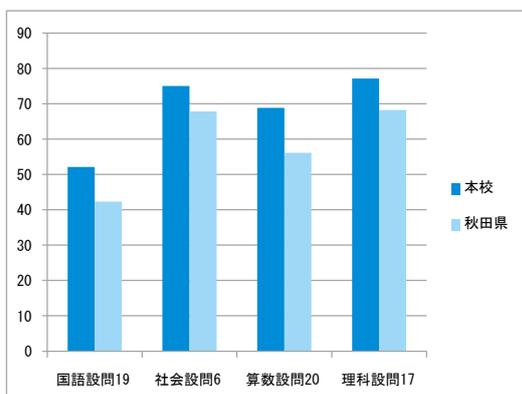
この調査結果から、目的に応じて複数の事象を比較したり、関連付けたりする学習に重点を置く必要があると判断した。単元全体を見通して、このような学習活動を授業に組み入れていくことが課題となった。

2 成果

平成24年度秋田県学習状況調査から

全国学力・学習状況調査B問題の趣旨を踏まえた問題の県平均との比較（6年）

複数の資料等を活用したり、複数の事象を取り上げて記述したりする力が向上してきた。



◇設問内容

- 6年国語（19） 登場人物の心情や場面についての描写を捉えて記述する。
- 6年社会（6） 日本の位置について複数の条件を満たして記述する。
- 6年算数（20） 2つのグラフから、与えられた考え方が正しいかどうか記述する。
- 6年理科（17） 生き物と空気の関わりについて記述する。

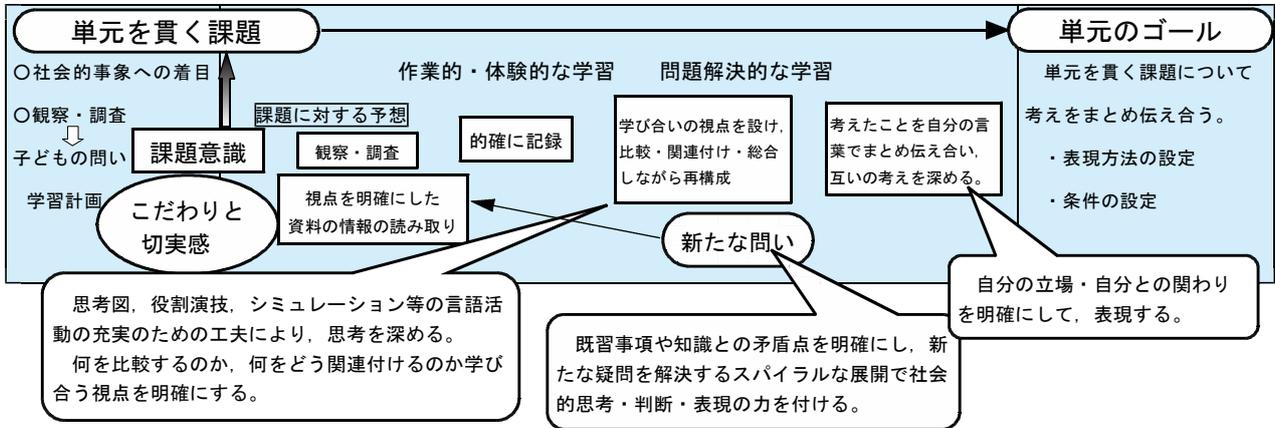
Ⅲ 成果に寄与したと考えられる取組

1 教科の特性やねらいに応じた単元構成の工夫

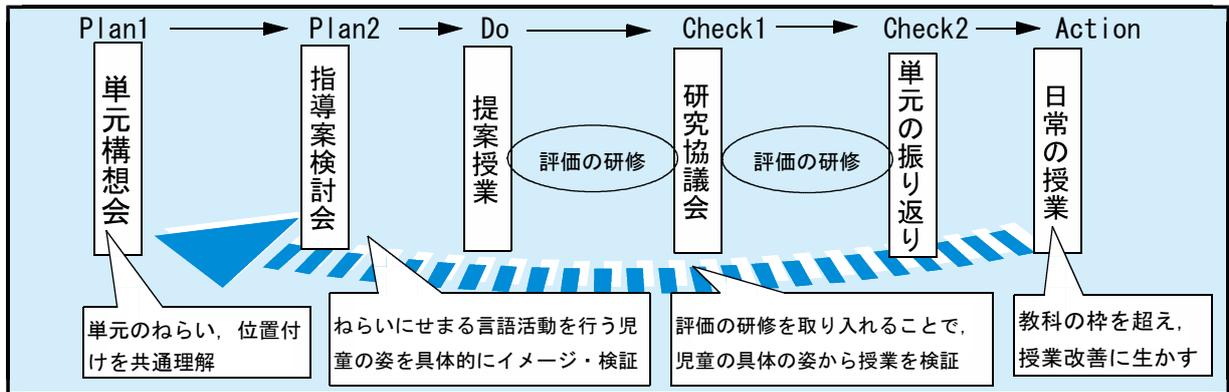
(1) 単元モデルの作成と単元構想会の位置付け

国語・社会・算数・理科・生活の5教科の単元モデルを作成し、教科の特性とねらいを捉えるようにした。この単元モデルを基にして、指導案検討会の前に単元構想会を設けた。

▼社会科単元モデル



▼学力向上に向け、授業研究会を日常の授業に生かす検証改善サイクル



2 学び合いの視点を明らかにした授業づくりと評価

(1) 評価と連動させた学び合い

一単位時間の「西目っ子の学び」の学習スタイルを基本にして、授業を構築している。

	過程	評価の視点
つかみタイム 5分	わくわくする課題	→ ・見通しがもてているか
自分タイム 10分	子どもに任せる自力解決	→ ・どの階層の考えか → ・どのような根拠を示しているか
つなぎタイム 15分	視点を明確にした学び合い	→ ・どの階層の考えか → ・事象を関連付けているか
まとめタイム 15分	まとめ ふり返り	→ ・学び合ったことを生かしているか → ・自己の変容に気付いているか

(2) 評価の研修を通じた共同研究

授業研究会で指導案の評価規準に照らして、実際に参観者が授業中に評価をする研修を行った。協議グループで4、5名の児童を担当して評価し、グループ協議で評価を突き合わせた。児童が授業のどこで学び合い、変容していくかを追跡して評価するため、児童の具体的な姿が話題になり、それを切り口に授業展開や支援について検討できた。参観者が提案授業に主体的に関わることができ、共同研究を進める上で効果のある研修スタイルであった。

研究主題

学び合いで、確かな学力の向上をめざす指導の工夫
～教科の特性及びねらいに応じた言語活動を通して～

由利本荘市立西目中学校 校長 相庭 晋司

I 研究の重点

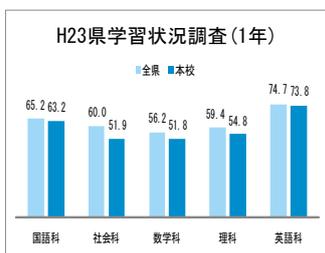
- (1) 基礎的、基本的な知識・技能の習得及びこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成に関すること
- (2) 学習習慣の定着や学習意欲の向上に関すること
- (3) 学習評価の改善と指導の充実に関すること
- (4) 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた、教育指導の充実や学校状況の改善に関すること

II 自校の課題と取組による成果

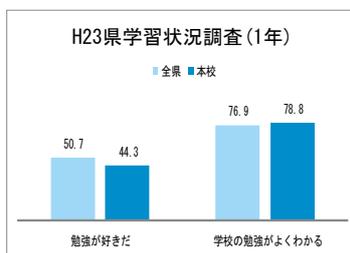
1 自校の課題

昨年度の県学習状況調査における現2年生の結果を見ると、学力面では県平均と比較して各教科とも下回っていた（グラフ①）。学習に対する意識等、情意面（グラフ②）では県平均並かまたは下回る状況であり、教科別に見ると理科（グラフ③）では「大好き」「好き」が少ないことが分かった。数学についてもほぼ同様の結果であった。また、設問ごとに見ると、筋道を立てて論理的に思考することを苦手としていることが分かった。以上のことから次の2点を本校の課題として捉えた。

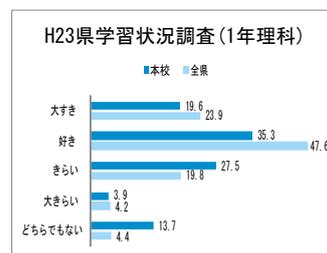
- ・学習に対する意欲が十分に高まっていない。
- ・教科の特性に応じた言語を用いて思考したり、説明したりする力が十分育っていない。



グラフ①



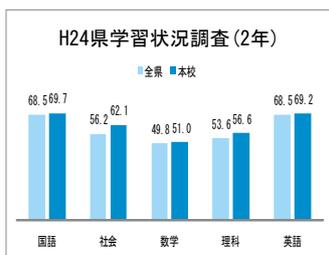
グラフ②



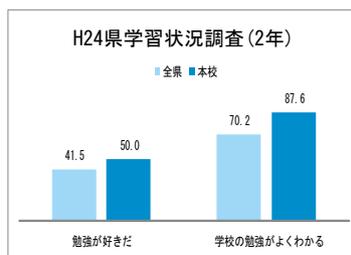
グラフ③

2 成果

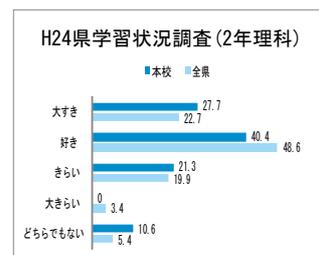
今年度の調査結果によれば、学力面では各教科とも全県平均を上回り、学力の向上が見受けられた（グラフ①→④）。また、学習全般に対して意欲的な生徒が増えたこと（グラフ②→⑤）、教科では理科に対して好意的な生徒が増加している（グラフ③→⑥）。言語活動の充実を通して課題の克服に取り組んだことにより、考えることが好き、学んだことが役に立つという実感を抱く生徒が増え、学力の向上となって現れたと考える。



グラフ④



グラフ⑤



グラフ⑥

Ⅲ 成果に寄与したと考えられる取組

1 教科の特性に応じた言語活動の設定と実践

各教科において、文部科学省発行の「言語活動の充実に関する指導事例集」等を参考にして授業実践を行った。また、各教科において「身に付けさせたい力」と「言語活動」を明らかにすることで、教科の特性に応じた言語活動の共通理解を図ることができた。

＜授業実践例＞ 【理科】 3年 「化学変化とイオン」

授業では、仮説の段階から話形を用いて筋道を立てて考えることを意識させ、実験を行うようにした。各グループにホワイトボードを準備し、モデルを用いて説明できるようにすることで、化学変化やイオンについての理解を深めることができた。



▲ホワイトボードを用いて酸・アルカリの原因を説明している様子

各教科における「身に付けさせたい力」と「言語活動」		
教科	各教科で「身に付けさせたい力」	それらを育成するためにどのように「言語活動」を充実させるか。
数 学	(1) 事象を数量、図形などで数学的に表現し処理する力 (2) 数学的な事象に関心を持ち、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用しようとする態度 (3) 根拠を明らかにし、筋道を立てて説明する力	(1) 根拠を明らかにし筋道を立てて体系的に考える場面を設定する。 (2) 言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解し、それらを適切に用いて問題を解決したり、自分の考えを分かりやすく説明する場面を設定する。 (3) 互いに自分の考えを表現し伝え合ったりする場面を設定する。
理 科	(1) 科学的な見方や考え方 (2) 解決の必然性をもって問題に取り組んだり考察の視点を明確に把握して思考したりする態度 (3) 自分の考えを文章やモデル図等で表現する力	(1) 実験観察に際して、自分なりの予想を立て、その根拠をもって説明し、他とのちがいを明らかにし、意見交流をはかる。 (2) 実験観察のレポート提出や科学研究の提出を行い言語能力の育成をはかる。 (3) 授業の中で理料的な表現や言語を用いて、根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合う活動を工夫する。

2 ショートスピンの検証改善サイクルの確立

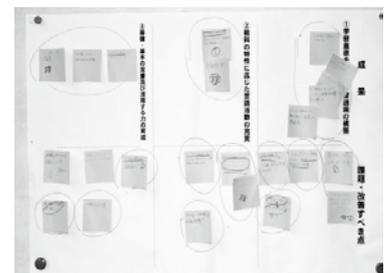
研究会・研究会・諸調査の分析等を効果的に機能させるために、1年を3期に分けて、手立ての見直しや修正を加え、研究をステップアップできるようにした。

学力向上を目指した検証改善サイクル

期	段階	研究会・研究会等	主な内容
第Ⅰ期	Plan (計画)	○第1回全体研修会 (4/3)	①本年度の研究主題、研究の重点の確認 ②生徒の学力面での実態に関する共通理解 ③教科における「言語活動の充実」について
		○第2回全体研修会 (5/15)	①指定校訪問第1回授業研究会のねらい及び学習指導案の形式 ②教科の評定方法の確認
	Do (実践)	○指導案検討会 (5/25・29)	①指導案作成協議を通して
		○指定校訪問Ⅰ (6/6)	②ワークショップ形式授業研究会の実施
	Check (評価)	○第1回授業アンケートの実施	生徒の実態把握や授業改善のための資料収集
○第3回全体研修会 (7/25)		①第1回授業研究会における成果と課題 ②各教科における言語活動の充実 ③学習過程モデルの提案と実践	
第Ⅱ期	Action (改善)	○アンケートや研究授業を踏まえた実践	
		○指定校訪問Ⅱ (9/12)	①研究主題の具現化 ②ワークショップ形式授業研究会の実施
	Check	○第5回全体研修会 (10/2)	①第2回授業研究会の成果と課題 ②市授業実践公開研究会に向けて ③「教科の特性やねらいに応じた言語活動」に関する共通理解
		Action	～10月・11月
	第Ⅲ期	Do	○市授業実践公開研究会 (11/22)
○県学習状況調査 (12/6)			研究の成果と課題の把握 (校内分析)
Check		○第6回全体研修会 (12/11)	研究紀要作成のねらいの確認
		○県学習状況調査の分析 (1月)	研究の成果と課題の把握
		○授業力向上推進会議 (1/18)	成果の普及
		○県教育研究発表会 (2/7)	成果の普及
Action	1月～3月	県学習状況調査の陥没点の指導	
Plan	○第7回全体研修会 (3/14)	研究のまとめと次年度の計画	



▲動点の問題の解法について説明している様子 (3年数学)



▲ワークショップ型の研究協議を実施した。成果と課題が明確になった。



▲授業参観には西目小・西目高の先生方も参加し、生徒の姿を基にして協議した。

研究主題

学び合いを通して、考える力・表現する力を高め合う子どもの育成
 ～分かった！できた！子どもたちが求める楽しい授業をめざして～

大仙市立西仙北小学校 校長 高橋 勇治

I 研究の重点

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得及びこれらを活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成に関する事
- (2) 学習習慣の定着や学習意欲の向上に関する事
- (3) 全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえた、教育指導の充実や学校状況の改善に関する事

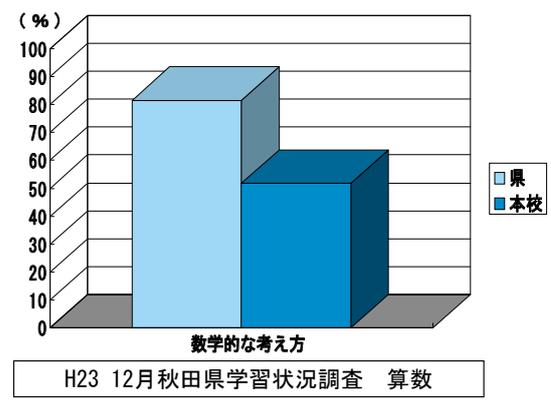
II 自校の課題と取組による成果

1 自校の課題

統合前の4校の調査結果や研究推進状況から、本校では次の4点に課題があると捉えた。

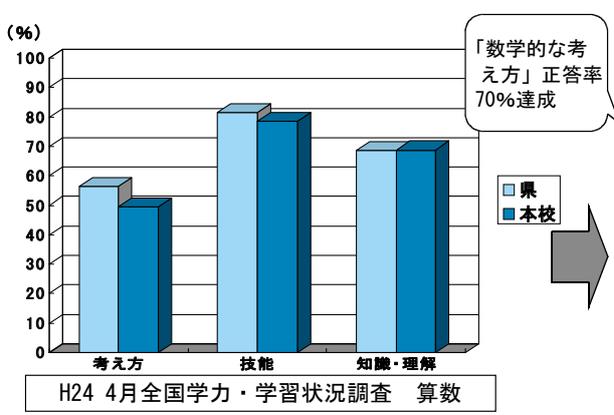
- ・友達と関わりながら思考・判断する力
- ・論理的に表現する力
- ・学習意欲
- ・学習習慣

そこで、教科の特性として論理的思考力・表現力を高められる算数科の授業改善を中心に研究を進めた。

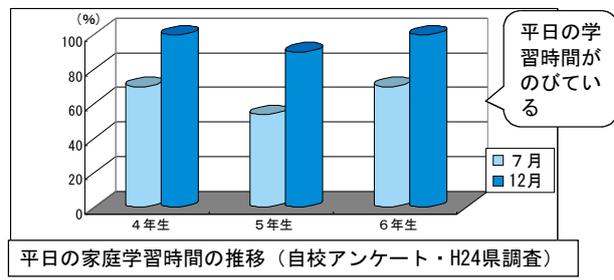
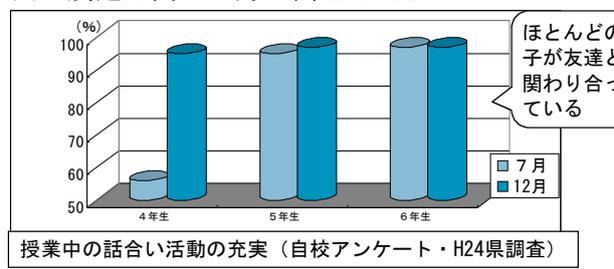


2 成果

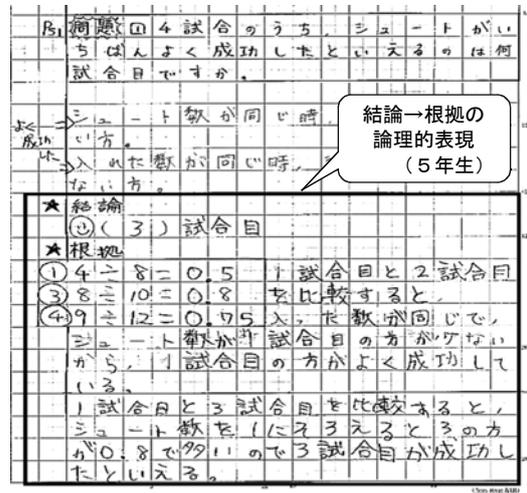
(1) 児童の論理的思考力が向上した。



(2) 友達と関わる力が向上した。



(3) 児童の論理的表現力が向上した。



- (4) 児童の学習意欲が向上した。
- (5) 児童の学習習慣が定着してきた。

Ⅲ 成果に寄与したと考えられる取組

1 思考力・表現力を高める算数科の授業改善「にしせんスタンダード」

(1) 「にしせんスタンダード」の確立と実践

45分間の授業デザイン

①問題 ②子どもと作る「めあて」 ③自力思考 ④集団思考
⑤子どもと作る「まとめ」 ⑥適用問題 ⑦評価問題 ⑧ふり返り

子どもと作る「めあて」

- ・前時との違い、子どもの違和感、疑問から作る
- ・原理・原則を意識しためあて
- ・言葉、図、数直線を意識したアウトプット型も取り入れる
- ・帰納、類推、演繹のどれを使うのかを意識する

「にしせんスタンダード」の集団思考

①つなぎタイム1(課題解決)

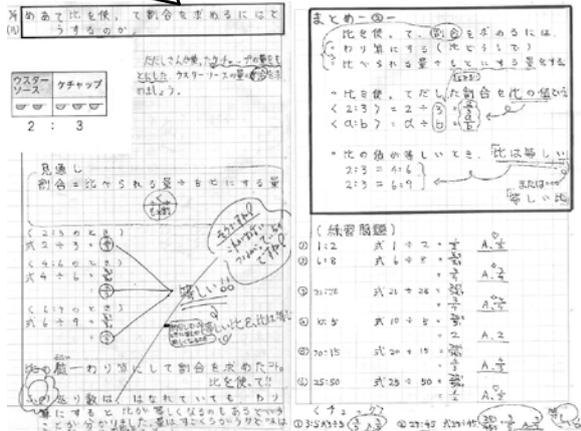
- ・第一問題の解決(あるいは第二問題まで)
- ・ペア、トライアングル、グループ、オールクラスで学び合う

②まとめづくり(原理・原則発見)からめあて達成へ

- ・主に一斉で言葉をつないでいく

友達みんなで
つなぎタイム
(6年生)

板書と対応した
1時間の流れが
わかるノート
(6年生)



(2) 検証方法

- ・授業研究会における外部指導者からの指導助言
- ・授業時の評価問題場面での正答率「つなぎタイム」での子どもたちの姿(分かった!できた!)
- ・12月の県学習状況調査の正答率及び児童質問紙の集計結果

○外部指導者の声

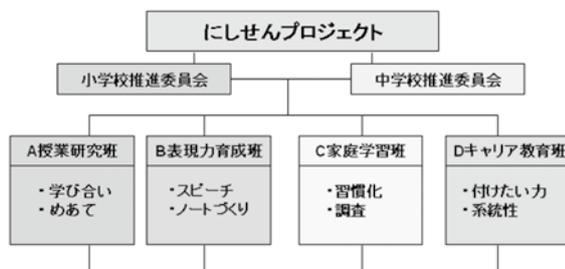
- ・学校一体となつての実践は、学級担任や学年が変わっても同じ学びで実践できるのがよい。前半がコンパクトで後半の学び合いが充実している。
- ・めあてにこだわっているのがよい。友達から学んでいくよさを感じられる。「あ、そうか!」のつぶやきがたくさん聞こえた。
- ・ノートと板書の充実、リズムとテンポ、全員の確実な理解、どれも研究の成果が見える。学習の仕方、学び合いを通して、学級づくりがしっかりされている。
- ・「つなぎタイム」を2段階にしたことで集団思考の目的とゴールがはっきりし、学び合いが充実するものになった。素晴らしい成果であり、他校にもぜひ紹介したい。
- ・今、大切になってきている、授業におけるユニバーサルデザインが随所に感じられた。大変参考になり、来年度の研修にぜひ取り入れたい。

○保護者の声

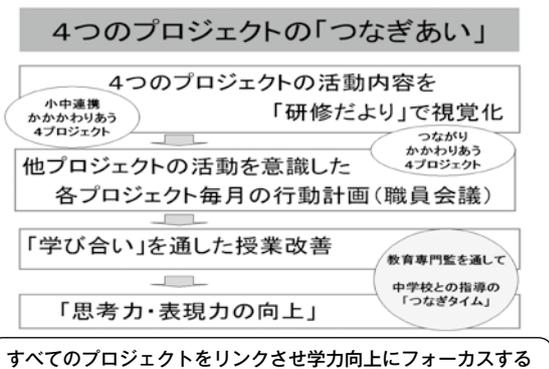
- ・この学校に転校してきて、嫌いだった算数を「楽しい!」というようになってうれしい。

2 小・中連携での学力向上プロジェクト「にしせんプロジェクト」

(1) 推進組織



(2) 各班の取組をシェアリング



(3) 各班の検証場面・方法・具体的目標

- A 授業研究班・・・県学習状況調査の思考力を問う問題で正答率70% (12月)
- B 表現力育成班・・・県学習状況調査の思考力記述問題で正答率70% (12月)
- C 家庭学習班・・・県学習状況調査の児童質問紙で家庭学習目標時間達成者70% (12月)
- D キャリア教育班・・・県学習状況調査の児童質問紙で「将来の夢をもっている」100% (12月)

研究主題

**生徒が「分かる、できる、楽しいと実感できる授業」の実践
～「つなぐ」を意識した学び合いを生かす授業の追究～**

大仙市立西仙北中学校 校長 佐藤 心一

I 研究の重点

- (1) 各教科等の特質に応じた言語活動の充実に関すること
- (2) 学習評価の改善と指導の充実に関すること
- (3) 全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえた、教育指導の充実や学校状況の改善に関すること

II 自校の課題と取組による成果

1 自校の課題

- ・問題文の意味を適切に理解する力、自分の考えを論理的に表現する力、基礎的・基本的な知識・技能を育成すること
- ・課題意識をもって学習に取り組む態度を育成すること
- ・将来の夢や目標をもっている生徒を育成すること
- ・家庭学習の充実を図ること

2 成果

- (1) 生徒の学習意欲が高まった。

7月に自校で行ったアンケート結果と秋田県が毎年12月に実施している学習状況調査の児童生徒質問紙の結果を比較すると、「勉強がよく分かる」と答えた生徒の割合が増加し、「授業で話し合う活動をよく行っている」「授業で発表する機会がある」と答えた生徒も全学年で増えている。特に、1年生は12月の調査で全員が「発表する機会がある」と回答しており、授業改善の成果であると捉えている。

また、家庭学習時間がどの学年でも増加しており、特に2年生の土・日の平均学習時間は7月の調査で、67.1分だったが12月の調査では119.5分と大幅に増え、2時間以上学習する割合もほぼ県平均と同じになった。

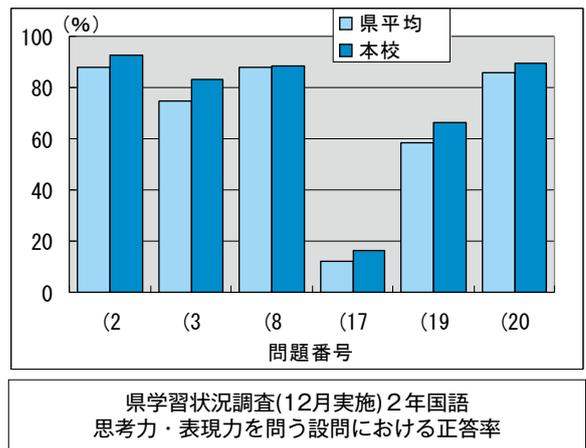
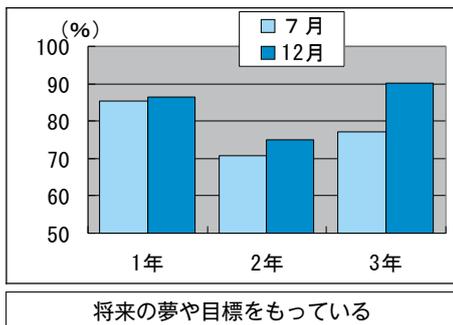
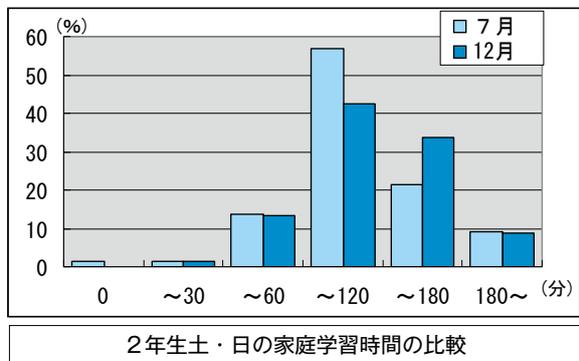
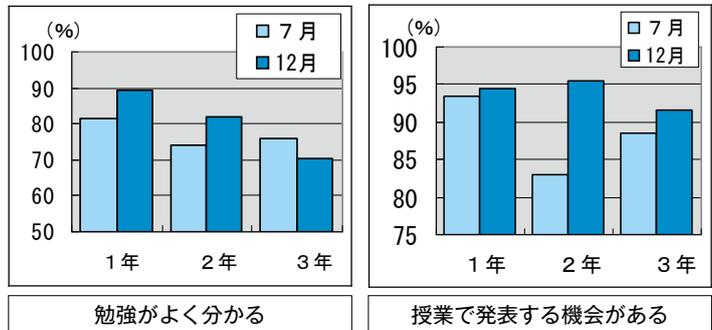
- (2) 思考力、表現力が向上した。

県学習状況調査においては、国語、数学ともに思考力、表現力に関する設問のほとんどで本校の正答率が全県平均を上回っており、思考力、表現力が向上していることが分かる。

- (3) 目的意識をもって学習する生徒が増加した。

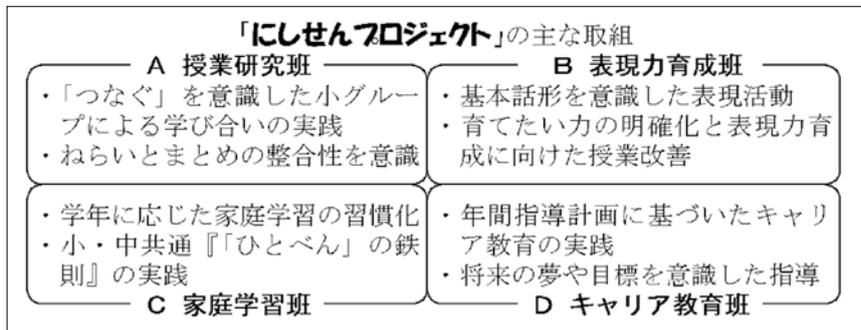
将来の夢や目標をもっている生徒がどの学年でも増え、特に2年生ではほぼ全員が、将来に向けて今の学習を大切にしたいと答えた。

7月と12月の生徒質問紙結果の比較



Ⅲ 成果に寄与したと考えられる取組

学区内にある西仙北小学校と共に「にしせんプロジェクト」を立ち上げ、授業研究班、表現力育成班、家庭学習班、キャリア教育班に分かれて、小学校と中学校が連携して自校の課題解決に取り組んだ。



小グループによる学び合い

(1) にしせんプロジェクトの具体

○授業改善に向けた取組

- ・生徒の思考をゆさぶる課題提示の工夫
- ・「学び合う学び」のためのグループ学習
- ・生徒と生徒の思考をつなげる授業の構築
- ・思考過程が分かるノート作りと板書の工夫
- ・校種、学校及び教科の枠を超えての授業研究

○表現力育成に向けた取組

- ・育てたい力を明確にした教科指導
- ・根拠を明らかにして話す、書く活動の実践

○家庭学習の定着に向けた取組

- ・宿題と家庭学習の定着に向け、小・中共通で家庭との連携を図る取組

○キャリア教育の充実に向けた指導

- ・9年間を見通したキャリア教育の実践
- ・関係機関との連携（職場訪問、高等学校・専門学校・大学訪問）や進路集会等の充実

(2) 検証方法

- ・12月の県の学習状況調査の思考力、表現力を問う設問の正答率による検証
- ・自校アンケートと県学習状況調査生徒質問紙による検証
- ・教職員等を招いての研修

言語活動の充実を図る教科指導				
教科	目指すところ	取組	成果	課題
国語	・人の話をよく聞き、目的や場、条件に応じて適切に表現する力 ・根拠や論拠に基づき、筋道を立てて考え、それを簡潔に説明する力 ・日常の言語活動の中で、漢字や語句を適切に使い分ける力	・グループで話し合いの時間の設定 ・事実や根拠をおさえた読み方や聞き方の態度・習慣を身につけさせる。 ・自分の考えや意見を言ったり、簡潔に話したりする場の設定。 ・話し合いにおける基本話型の指導 ・質疑者の設定、読者の奨励	・基本話型を意識して話し、根拠を述べるができる。 ・「書くこと」においても、根拠を明らかにして書くことができるようになってきた。→1年68.5% 2年89.7%	・相手に伝えたいという意識が不十分 …声量、内容など。 ・読書不足。
社会	・多面的多角的に社会的事象をとらえる力	・資料の発掘や選択提示の工夫 ・課題意識を高められるような学習課題の設定 ・「なぜ、どうして～なのだろうか？」の問いかけを行い、考え合う場の設定。	・意図的な意見交換ができた。 ・ペア・グループ学習により、自信をもって考えを表現できた。	・全体での話し合いの深め方。 ・資料を適切に選択、活用する力や、知識を活用して考えたことを説明したりまとめたりする力。
育てたい力を明確にした教科指導				

西仙北小・西仙北中共通の家庭学習（通称：ひとべん）の定着を図る取組

西仙北小学校・中学校共通

「ひとべん」の鉄則！

①その日の日付を書く。
②学習のタイトルを書く。
その日の学習内容を決めてとりかろう

タイトル例 ・「●●のノート復習」
・「●●のワーク復習 P●」
・漢字練習（ワークP●～●）（練習帳P●～●）（教科書P●～●）
・単語練習
・計算練習

中間テストの手前えらいか？ 気持ちを新たに勉強に動きたい人に…

ひとべんのレベルアップをめざそう！

毎日休まずに「一人勉強ノート」をがんばっているみなさんはとっでもえらい！！

まさに「継続は力なり」ですね。このまま続けて、学習の習慣を定着させましょう。

研修で取り上げられた成果

- 「学習問題提示→本時の学習課題（めあて）→自力解決（ごく短い時間）→学び合い（小集団学習）→一斉指導での確認共有化→まとめ→振り返り→評価問題」という授業の流れが確立されている。
- 生徒とともにつくる数学授業を実践している。4人グループでの交流学习を行っているが、その目的が「わからなさの共有」であり、自分が何がわからないか、それを対話によって追究している姿が見られた。
- 中学校では、学力差が大きいため数学の学習への意欲が低下する場合があるが、指導者の創意工夫により、あきらめずに最後まで取り組む生徒の姿が見られる。小集団学習による学び合いを取り入れることによって、意欲の向上につながっている。教師による生徒の見取りもきちんと行われている。
- 課題の難しさが、授業を盛り上げていた。さらに、難しい問題だからこそ生徒同士の交流も深まった。授業の中に交流の場があり、教育的意義も見えた。



<学校改善支援プランと併せて活用してください>

秋田県検証改善委員会では、平成19年度から毎年「学校改善支援プラン」を発行しています。その中で、学力向上に係る特色ある取組を紹介していますので、本実践事例集と併せて活用してください。

なお、本実践事例集及び学校改善支援プランは、「美の国あきたネット義務教育課 (<http://www.pref.akita.lg.jp/www/genre/0000000000000/1000000001134/index.html>)」及び「学力向上支援Web」から、ダウンロードすることができます。